

横浜保育福祉専門学校 学校関係者評価委員会における指摘事項等

令和6年3月15日、および5月23日、本校にて社会福祉法人施設長、県立高等学校校長、戸塚区区役所職員、地域住民代表、卒業生代表(保育士)よりそれぞれ1名、保育園園長2名、合計7名に委員として出席いただき、教職員(3月9名、5月8名)と学校関係者評価委員会を実施した。指摘事項等は以下のとおり。

1. 教務活動について

- ・1年インターンシップは良い活動。早期に不安を拾う事で手立てを考えられる。コミュニケーションが苦手な学生にはハードルが高いかと思っただが、よい表情が見られ、価値のある活動だと感じた。今後、コミュニケーションが難しい学生が増えると予想される中。サポート体制の構築が課題。いざ実習に行く時に学生達は不安が多いと思うが、命を預かる現場としては伝えるべきものがある。最近の学生は、前向きに挑戦をしようとする学生が多い。
- ・2、3年生の実習で期待したい成長箇所は、経験したことで自信を持つこと。不安が多い実習に対して充実した実習が出来た学生は終わってからの顔つきが変化している。実習終了後に向いていないと感じる学生もいるとのこと、実習意見交換会を実施する事で課題を持つのは皆同じである事を共有し、前向きにとらえるよう支援する体制は良い事。続けて欲しい。
- ・出席率に苦勞している点は高校でも同様。コロナ世代は出席に関して意識が希薄。人間関係が原因の欠席は、高校もスクールカウンセラーにつないでいるが、なかなか難しいらしい。その世界がすべてではないことを伝えていくことの大切さ、優しく接していくことでサポートしてほしい。
- ・コロナ禍の時は、退学率は減ったが、就職後の離職する保育士が目立った。保育を目指そうとした学生の為、コロナ禍後も退学者なく頑張ってもらいたい。学生を大事に育ててもらいたい。

2. 就職について

- ・保育園は人材不足。養成校があっても、エントリーに学生が一人も来ない事も。派遣や、紹介会社でやっと見つけたと思ってもすぐやめてしまう。社会人として遅刻は厳禁など、学生のうちは理解が難しいかもしれないが確りと指導をおねがしたい。学生の立場から、働くことは給料をもらうことになるので、園側でバックアップできるようにしていきたい。

3. 社会貢献・地域連携について

- ・よこほっとCaféの際にOG、OBがたくさん来ていて、すごいと感じた。コロナによって産後うつが増えている。今後も、学生たちに頑張ってもらいたい。
- ・みらころ(こども食堂)でとても学生が活躍してくれている。我々も助かると同時に学生の学びにつながっているのではないかと感じる。今後もボランティアを依頼させてもらう事もあると思う。学生にも経験を積んで頂き、保育士になって自信を持って仕事にあたるように支援していきたい。